

## 京都市基本構想における関連記述 **国際化**

～すべてのひとがいきいきとくらせるまち～

国籍や民族、生まれや生い立ちに関係なく、すべてのひとが自分の居場所を確認し、自己の資質を十分発揮しつつ、いきいきと活動できる場所と機会に恵まれたまちをめざす。  
～活力あふれるまち～

まちがにぎわい、若いひとたちがいきいきと学び働く場が増えるとともに、世界のひとびとがこの地に集まり、ここを舞台にみずから的能力を十分発揮できる機会も増える。

### これまでの主な取組

- ① 姉妹都市交流や歴史都市連盟の運営、パートナーシティの創設など多彩な国際交流活動の推進
- ② 外国籍市民施策懇話会の創設・運営、医療通訳派遣事業の開始など多文化共生社会の推進
- ③ 留学生国民健康保険料補助事業の開始、留学生優待プログラムの創設など留学生施策の充実

## 論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス(追い風)は？放置できない問題(向かい風)は？
- ◇ 活用できる資源(強み)は？克服すべきこと(課題)は？

外部環境分析（施策を推進するうえで、追い風又は向かい風となる変化や社会的な状況）	
追い風	向かい風
○国際会議数が増加している	○近隣国との国際会議誘致競争が激化している
○国において2020年を目指して30万人の留学生受け入れを目指す計画がある	
○インターネットの普及をはじめ、社会、経済、文化などあらゆる面において、グローバル化が進展している	

京都の現況分析（他都市等と比較して、京都の現況が優位又は劣位である事項）	
京都の強み	京都が解決・克服すべき課題
○在日韓国・朝鮮の方をはじめ、多くの国籍の外国人市民が暮らしている	○留学生の就職の機会の増加
○ノーベル賞受賞者などを輩出した優れた大学が多く、留学生にとって魅力的である	○言葉や文化の相違に起因した課題を解消するための支援
○海外に誇れる日本の優れた伝統文化、芸術を有している	○国際交流・協力を推進する人材の育成
○姉妹都市や国際交流団体が多く、民間交流の機会が多い	

## 論点2 政策の基本方向

- ◇ 今後10年間の基本的考え方、価値観は？

### これまでの動き

#### ＜現在の方向性＞

京都市国際化推進プラン

- ・ 基本的な考え方
  - 1 市民や来訪者がより心豊かに暮らせる社会の実現
  - 2 世界中の京都としての発展
  - 3 平和で持続可能な世界の実現に向けた貢献
- ・ 国際化の目標と主な取組
  - 1 世界がときめく町・京都 ～世界の人々をひきよせる京都の魅力の向上と発信～
    - ・ 留学生倍増（4,500人⇒1万人）に向けた取組
    - ・ 京都の魅力を世界に伝える「京都市名誉親善大使」の創設
    - ・ 観光ボランティアの育成、観光案内所や観光イベント等への派遣実施
    - ・ 飲食店メニュー等の多言語化や繁華街等での多言語化の推進
    - ・ 国立京都国際会館の拡充・整備
  - 2 世界とつながるまち・京都 ～市民主体の国際交流・国際協力の推進
    - ・ JICA等の国際協力機関と連携した技術協力の推進
    - ・ 歴史都市連盟の活動における市民参加の拡大
    - ・ 青少年対象の国際学術コンテストなど国際的な催しへの積極的な参画
    - ・ ホームステイ、ホームビギット等での外国人と直接触れ合う機会の促進
  - 3 多文化が息づく町・京都 ～外国籍市民が暮らしやすく、活躍できるまちづくりの推進～
    - ・ 日本語ボランティアに対する活動支援の充実
    - ・ 教育や子育てに関する情報の多言語化の推進
    - ・ 災害ボランティア通訳システムの整備
    - ・ 行政・大学等が提供する市内の留学生向け住戸2,000戸の実現
- ・ プランの推進
  - 1 市民、民間団体等との協働
  - 2 多様な主体間の連携、協働
  - 3 京都市国際交流会館における事業の充実
  - 4 庁内体制の強化と人材の育成・確保
  - 5 プランの進行管理

平成20年12月策定

## 論点3 市民と行政の役割分担と共汗

- ◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

## 論点4 10年後に目指すべき姿

- ◇ 10年後のるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？